

会議録

名称	第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会（第6回）
開催日時	令和6年12月2日（月） 13：30～14：10
開催場所	各務原市市役所4階 第3・4会議室
出席者	委員18名のうち、出席者15名、欠席者3名 柴崎建委員長、清水恵子副委員長、荻谷直文委員、矢野泰嗣委員、稲垣光晴委員、小川伸委員、土田周策委員、杉山正明委員、中野正勝委員、安井徳子委員、飯沼洋成委員、山田弘委員、五十川綾子委員、山田雅義委員、加藤雅人委員 ※欠席者：細江伸央委員、可兒正則委員、高橋功騎委員 事務局：各務原市福祉政策課、各務原市社会福祉協議会地域福祉課
議題及び 審議・協 議結果等 の概要	次第 1 開会 2 議事 （1）パブリックコメント結果の報告について （2）第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について （3）答申書（案）について 3 その他 4 閉会
	1 開会 ・委員3名欠席で18名中15名が出席しており、各務原市附属機関設置条例第7条第2項の規定により、過半数の委員の出席があることから、本会議が有効に成立していることを報告。 ・傍聴希望者が0名であったことを報告。 ・資料の確認。 ・委員長より開会のあいさつ。 2 議事 （1）パブリックコメント結果の報告について 《事務局より説明》（資料1・2） 《質疑意見なし》 【委員長】 ・ご意見がないようであるため、パブリックコメントについては承認とさせていただきます。なお、P.68「38 配慮を必要とする家庭への支援の充実」については、「ヤングケアラー」の文言を追記するということによろしいか。 （参加委員一同）異議なし

【委員長】

- ・パブリックコメントについては了承とする。

(2) 第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画(案)について

《事務局より説明》 (資料2)

《質疑意見なし》

【委員長】

- ・ご意見がないようであるため、計画案については承認でよろしいか。
(参加委員一同) 異議なし。

(3) 答申書(案)について

《事務局より説明》 (資料3)

《質疑意見》

【委員】

- ・答申の2段落目にある「当策定委員会では、計画の内容について適当と認めますが、計画の遂行にあたっては」について、「認めますが、」が逆説で分かりにくいので、「認めます。」で文章を区切ってはどうか。そして、「なお、計画の遂行にあたっては次の事項に十分配慮し、」とつなげる方がよいのではないか。
また、記の2つ目「孤独・孤立対策の推進」において、2行目にある「孤独・孤立は誰にでも起こり得る困難である一方、行政のみでなく、」について、「困難である一方、」だとよくないことの反対でよいことがあるという言い回しに聞こえる。「孤独・孤立は誰にでも起こり得る困難であるため、行政のみでなく、」と変更して「困難であるからこそ行政のみではなく、皆さんと一緒にやっていきましょう。」のような表現の方が適切ではないか。

【事務局】

- ・ご意見の内容に修正する。

【委員】

- ・記の4つ目「制度のはざまにいる人への支援」において、8050問題が全国的な問題となっているが、各務原市で実際にある問題なのか。顕在化と書くほど問題の可能性はあるのか。

【事務局】

- ・ここでの数値的な報告はできないが、8050問題に関する事例は挙がってきている。他自治体においても、計画を進めるうえで、顕在化していないが8050問題に該当するという状況を確認している。各務原市においても、8050問題に取り組むことで、より課題として挙がってくることも考えられるので、重点プロジェクトとして掲げて進めていく必要がある。

	【委員】 ・ 8050問題について貴重なご意見をいただいた。地域包括支援センターで支援する中でも、8050問題といわれるような問題はある、ここ数年で顕在化している実感はしている。ただ、潜在化している可能性は高く、どのように手を差し伸べていくかというのは難しい問題であると思うが、重点プロジェクトで示されているように、周知やコーディネート機能の設置など進めてほしい。また、概要版においても、コーディネート機能について、どのような支援を実施しているのかを明確に示してほしい。 【事務局】 ・ 地域包括支援センターにて市から生活困窮者自立支援の関係で委託を受けているが、これまで潜在化していたニーズが、顕在化され始めたことを実感している。例えば、近隣ケアのグループや民生委員からケースが挙がってきて、訪問や他機関と連携して対応を行っている。数としてはじわじわ増加しているという認識はある。 【委員】 ・ 基幹相談支援センターで相談を受ける中で、50代の障がいを持つ方の親が80代であり、親亡きあとについて考える状況があるなど、障がい福祉の中でも8050問題が顕在化している状況であると認識している。ただ、対象となる家庭が何件存在するのかについては、全体的な調査を実施しない限りは相談対応による把握のみかと思う。 【委員長】 ・ はざまの問題は8050問題以外にも、ヤングケアラーなども含まれるので、そのような問題を抱えている方への支援を充実させていくことが必要である。答申について、「計画の内容について適当と認めます。なお、計画の遂行にあたっては」と修正することと、「孤独・孤立は誰にでも起こり得る困難であるため、行政のみでなく、」の2か所を修正して答申したいと思う。 《異議なし》 ・ 答申案については承認とさせていただきます。 3 その他 《事務局より概要版のデザイン案について説明》 【委員長】 ・ A4で印刷か。 【事務局】 ・ A4の12ページで冊子の形で印刷する。 【委員長】 ・ 何かお気づきの点があれば早めに事務局に連絡いただければと思う。 ・ 議事が終了したため、進行を事務局にお返しする。
--	---

	4 閉会 【事務局】 ・委員会後、市長及び社会福祉協議会会長に答申を行う。 ・委員長より最後のあいさつ。 【委員長】 ・長きにわたる委員会へのご出席及び活発なご議論をいただき感謝申し上げます。パブリックコメントや本日のご意見にもあるように、地域福祉計画は抽象度が高く、内容の理解に時間を要する傾向がある。地域福祉計画は各福祉計画の上位計画として位置づけられているが、市の最上位計画として総合計画がある。私自身も総合計画の委員会にも携わっており、その中で議論されたことを地域福祉計画にも反映できるようにという意識で委員会に臨んでいた。個別の福祉計画は、総合計画や地域福祉計画の考え方や枠組みを踏襲したうえで、取り組み等を立案していく必要がある。委員の皆様には、地域福祉に関する疑問・困り事に対して、地域福祉計画のどの部分で対応できるかを伝えていただきたいと思います。また、専門的に関わっている方も、抱えている問題が地域福祉計画のどの取り組みで対応できるのかを考えおよび参考にさせていただきたいと思う。地域福祉を推進していくにあたっても、住民の生活が多様化しているので、こうだというのが通用しにくくなっていると感じる。社協など現場で関わっている方にとっても、それぞれの現場において価値観や考え方の理想がなかなか伝わらず大変なこともあるかと思う。ただ、生活する中で関係性は非常に大事であり、人は1人では生きてはいけない。このまちでよかったと思われるように取り組んでいく必要があると考える。 【事務局】 ・以上で、第6回第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会を閉会する。
会議資料	資料1 第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）への意見と市の考え 資料2 第5期各務原市地域福祉計画・地域福祉活動計画（案） 資料3 答申書（案）
備考	策定委員会終了後に、柴崎委員長、清水副委員長から浅野市長および社会福祉協議会の紙谷会長に答申を行った。